

研修成果報告書

今回、国内研修として、島根県の隠岐島前に足を運びました。8月25日～8月29日の日程で様々な企画を行ったり、地域の伝統的なお祭りに参加したり、観光をしたりと、非常に充実した時間を過ごすことができました。

主な企画の一つとして、現地の中学校を訪れ、「生き方学習」の一環で中学生との交流授業を行いました。大学生の生活とはどのようなものなのか、どんな学習をしているのか、将来の目標などを中学生に伝え、島で生活する中学生にこれからの生き方や今努力することについて考えてもらうことが目標でしたが、自分が予想していたものと比べてはるかに中学生の考えていることがしっかりしていて驚きました。授業の前に校長先生のお話を聞いたとき、「島の子どもたちは本当に貴重な宝である」とおっしゃっていたことがとても印象的でした。少子高齢化が進み、人口を維持していかなければならない島の現状において、島で生まれ育った子どもたちが、いかにして将来的に島の人々の暮らしに貢献していくかが重要であると感じました。また、生徒たちと会話をする中で、自分が中学生の頃には考えていなかったような話を聞くことができ、逆に中学生の話から学ぶことも多くありました。授業後には生徒たちと一緒に給食を食べ、授業時とは違った楽しい時間を過ごすことができました。今回の交流授業は、自分のことを中学生に伝えるということだけでなく、島の中学生がどのような考えを持って生活しているのかを知り、自分の生き方を改めて考え直すきっかけにもなりました。

企画の二つ目として、西ノ島町の行政の方々との交流を行いました。産業分野から観光分野、まちづくりの様子や課題に至るまで様々なお話を聞き、疑問に思っていたことに対する質問にも答えていただきました。少子高齢化が進み、高齢化率が39.5%にもなる西ノ島町では、「人の集う島へ Keep3000!」を目標に掲げ、人口3000人というラインを維持していくためのまちづくりが行われているそうです。そのために島の魅力を活かす3つの方策として、「資源を活かして働く」「助け合い健やかに暮らす」「自然とともに暮らす」という基本構想があります。「資源を活かして働く」の例としては、イカ・岩ガキ・サザエをはじめとした水産物の資源に恵まれていることを活用して西ノ島町ブランドの確立に向け、多様な主体の連携による特産加工品開発に取り組んでいることがあり、他にも海・景色・花・鳥などの自然資源を活用した多くの「しごとの種」がある西ノ島町で、これまでの「勤める」という働き方にとらわれることなく、自分のアイディアを活かしながら西ノ島町ならではの働き方を模索することを応援し、西ノ島町らしい働き方の追求、美しい自然を守り活かす取り組みの追求をしていくそうです。「助け合い健やかに暮らす」とは、西ノ島町に住んでいる3000人それぞれの人的資源こそが西ノ島町の活力であり、その力が十分に発揮されるために、皆が心身ともに健やかであることが何よりも大切だという考えのもとで、子育て世帯への支援充実、保育体制の充実、地域による子育て支援体制の構築に取り組んでいるもので、医療の面においても、医師や福祉関係者等による地域ケア会議などを通じ

て、保険・医療・福祉の連携体制のもと、町民の医療にあたっており、緊急時にはドクターヘリ等による対応も行っているそうです。「自然とともに暮らす」とは、摩天崖や通天橋といった雄大で美しい自然景観のほか、地域固有の動植物により形作られた独自の生態系が息づいている西ノ島町の美しい自然環境を次世代へ継承していくために、自然と共生した暮らしを推進していくものです。「台地の成り立ち・豊かな生態系・人々の営み」が今も色濃く残っていることが評価され、西ノ島町を含む隠岐諸島は平成 25 年に「世界ジオパーク」に認定されました。

行政の方々のお話の中で、「定住してもらうためのきっかけになるのは観光であり、一回も来たことがない人が定住してくれるはずがない。だから観光に力を入れている。」とおっしゃっていたことが非常に印象的でした。人口 3000 人を維持し、町を豊かにしていくためには、UターンやIターン、外部からの定住者が増えることが望ましいのですが、西ノ島町のことを知らない人にいきなり定住してほしいと言うのには無理がある、だからまずは観光に来てもらって、西ノ島町の魅力を知ってもらうことが重要なのだというお話は本当にその通りであると感じました。また、島で生まれ育った人たちのUターンについてのお話の中で、「島の若者が学校を卒業した後都市部に出て行ってしまうのは仕方がないこと。いきなり島で働いてもらうことは難しいかもしれないが、30代を過ぎ、生活が落ち着いた頃にふと島に帰ろうかなと思う気持ちが出てくる人がいる。その時に受け入れる体制を整えておくことが大切だ。」とおっしゃっていたことも印象的でした。

企画の三つ目として、西ノ島町で肉用牛の畜産経営などの事業を行っている方に西ノ島町の立地や気候、農林業の概要についてのお話を聞いて質問に答えていただき、実際に牛舎の様子を見せていただいたり、西ノ島町の観光地を案内していただいたりしました。この日の夜にはその方のお宅に招いていただき、バーベキューをしました。自分たちが日常で経験するバーベキューとは比べものにならないほど豪華で、隠岐ならではのサザエや隠岐牛まで食べさせていただき、その美味しさに感動しました。初対面の自分たちに対してどうしてこんなによくしていただけるのだろうと考えましたが、この方自身も西ノ島町で暮らし、働いている中で島のこれからについて考え、少しでも多くの人に西ノ島町の魅力を知ってもらって知識を広げてもらいたいという思いがあるのではないかと感じました。実際に西ノ島町の観光地を訪れ、特産品を味わったことで、自分も西ノ島町に関する知識が増えただけでなく、その魅力をまだ知らない人に伝えたいという思いを抱きました。

今回の島前合宿では、これらの企画だけではなく、3日目の午後には西ノ島町の隣の島にある海士町に足を運んで「キンニャモニャ祭」という現地の伝統的なお祭りを見に行きました。「キンニャモニャ」とは海士町発祥の隠岐民謡のことで、これに合わせてしゃもじを持ちながら踊る「キンニャモニャ祭」は町最大のイベントです。当初は見学だけの予定でしたが、パレードを見ながら踊りを覚えていたら急きょ飛び入り参加枠でこのパレードに参加させていただけることになり、しゃもじを借りてみんなでパレードに入って踊ることができました。地元の方々と交流しながら様々な話をし、地域のお祭りに参加できたこと

はとても楽しく、よい経験になりました。観光では、西ノ島町でまだ行けていなかった国指定重要文化財にも指定されている焼火神社に足を運んだり、ご島地グルメである「さぎえ井」を食べたりして、充実した時間を過ごすことができました。また、3日目の夜に星が綺麗に見えるスポットに行ったのですが、現地の方が「今日はすごい」と言うほど星が綺麗にくっきりと見える日だったそうで、その美しさに心の底から感動しました。周囲には一点の明かりもなく、暗闇の中に見えるのは無数に輝く星だけ。天の川もしっかりと見る事ができました。都市部の生活では絶対に見ることができない景色を自分も初めて見る事ができて、これだけでも島前に来てよかったと思える時間でした。

以上のように、非常に充実した日々を過ごすことができた島前合宿ですが、今回の国内研修のような機会がなければ自分の人生の中で行くことはなかったかもしれません。現代福祉学部の学生としてまちづくりを学ぶ上で、様々な地域のまちづくりの現状、課題を知ることが大切なことだと思います。これからの学習や自分の人生において大きな財産となった今回の島前合宿での経験をさせてくれた国内研修の制度や運営に携わってくれた2年生の友人に感謝します。この島前合宿が来年以降も続き、島前の魅力を新たに知る人が増え、西ノ島町をはじめとした島前の人々の生活や産業の維持、発展に少しでも貢献することができたらよいと思います。